

# かごしまの心

きょう せんじん  
～今日，どの先人？～

小学校  
3・4年



鹿児島県教育委員会

鹿児島県

# 目次

「**主題名**」

「**教材名**」

「**登場する人物**」

1 「好きなことを のばしていくために」

「**見立ての世界**」

【**田中 達也**】

2 「あきらめない心」

「**きせきの バックホーム**」

【**横田 慎太郎**】

3 「**目標に向か**って」

「**自分への挑戦**」

【**川上 南溟**】

4 「困難に負けない強い意志」

「篤姫の願いぐれきしを変えた手紙」… 12

【篤姫】

5 「努力する心」… 15

【川路利良】

6 「みんなのために働くということ」

「大阪のおん人 五代友厚」… 18

【五代友厚】

児童の みなさんへ

この本は、鹿児島と関わりのある人たちのお話のついています。どのお話もその人が、鹿児島ですごしながら思ったことや考えたことが書かれています。このお話から考えたことなどを自分の生活に生かしてみましよう。

※ じゆ業以外でも読んでみたい人の話があったら読んでみましょう。

※ この本の他にも鹿児島と関わりのある人たちのお話をのせた本に「郷土の先人」・「続・郷土の先人」不  
屈の心「・「ふるさとの心」があります。学校に置いてあったり、鹿児島県教育委員会のホームページに  
のっていたりするので読んでみましょう。

# 1

好きなことを のばしていくために

## 見立ての世界

「どうしてこうなのかな。」

これは、田中達也さんが、モノを見る時にい

つも大切にしている考え方です。田中さんは、

ミニチュアの視点で、日じょうにあるモノを別

のモノに見立てたアートをせい作し、発表を続

けている作家です。田中さんは、おさないころ

から絵をかいたり、プラモデルやブロックで

遊んだりすることが好きでした。たくさんのおもちゃは持っていないで

が、そのかわり、一つのおもちゃからいろいろなことを想ぞうして遊んでいま



「新パン線」  
パンを新幹線に見立てた作品

した。また、友だちの意見で何かを決めることもありませんでしたが、自分に向いていないと思ったことはせず、自分に向いていると思うこと、楽しいと思うことをとことんするようなせいかくでした。

そんな田中さんが、大きくチャレンジする時がやってきました。それは高校を卒業して大学を選ぶときのことです。

田中さんは、自分のやりたいことを一番に考えました。それまではまだ、絵の道に進むことになかなかふみ出せずにいましたが、真けんを考えました。

「絵の道に進もう。」

絵の道とは、絵を描くことを職業にすることです。田中さんは思い切って絵の道に進むことを決め、美術の勉強ができる大学に進学しました。このときのこと、自分について深く考えるきっかけとなったのです。

大学に入ると、「自分の好きなことを長く続けていくためにはどうすればいい

いか。」と自分の行動をふり返り、自分について知ろうとしました。絵のことだけを考えるのではなく、「どうして自分はこれが好きなのだろう。」「どうして自分はこれが好きなのだろう。」、  
うして自分はこれがきらいなのだろう。」とつねに自分のことも考えるようになりしました。そして、自分が作りたい作品を作り上げ、毎日欠かさずにSNSに投こうし続けました。

自分のことをじっくり見つめるうちに田中さんは、「見立て」という自分だけのとく意な表現方法を見つけました。すると、作った作品がテレビやSNSなどに取り上げられ、たくさんの人たちに知られるようになりました。

それでも田中さんは、満足することなく今も、もくもくと作品を作り続けています。



しょうか  
「消火にいいバナナ」  
しょうか  
バナナを消火する水に見立てた作品

そんな田中<sup>たなか</sup>さんはこう言っています。

「周りの人を気にせずに、自分の好きなことをつきつめることで、結果<sup>けっか</sup>は後からついてきます。結果を先に求める必要<sup>ひつよう</sup>はありません。自分の好きなこと、やりたい気持ち<sup>きもち</sup>を優先<sup>ゆうせん</sup>してほしいです。それを楽しんでほしいな。」



ミニチュア<sup>さくひん</sup>作品をせい作している  
田中<sup>たなか</sup>達也<sup>たつや</sup>さん

# 2

あきらめない心

## きせきの バックホーム

阪神タイガースというプロ野球チームに東市来町（げんざいの日置市）出身の横田慎太郎さんという選手がいました。走るのがとても速く、力強いバッティングができる、明るく元気な選手です。プロに入ったときから「しよう来はチームの中心選手になる。」と多くの人の期待を集めています。

ところが、プロ野球選手になって四年目のことです。体の調子が悪くなり、病院で調べてもらうと「脳しゅよう」という命にかかわる大きな病気が見つかりました。

※脳しゅよう…脳の中に悪いできものができること



【少年だんでソフトボールをしている横田選手】

手じゅつは一回で終わらず、二回目の手じゅつは約十八時間もかかりました。さらに手じゅつ後は、強い薬くすりのため、はき気が続きつづ、思うように体が動かうごせない日が続きました。それでも横田選手は、「ここを乗のりこえないと何もできない。」

と、強い気持ちきもちをもち続け、体を動かすためのトレーニングをがんばりました。お母さんは半年間病院びょういんにとまりこみ、はげましの言葉ことばをかけたたり、身の回りみの世話せわをしたりして、横田選手のそばでささえ続けました。お父さんは、少しずつ体を動かせるようになってきた横田選手と、ころころと転ころがるボールをとる練習れんしゅうをくり返かえしました。また、横田選手はトレーナーとも協力きょうりよくし、体を動かす練習を重かさねることです、少しずつ前すすへ進すすんでいきました。

※トレーナー……スポーツ選手の練習や健康けんこうをサポートする人



【体を動かす練習をする横田選手】

そして、病気が見つかったから二年後、ふたび試合に出ることができました。目が見えにくいしようがいが残りましたが、それでも懸命にプレーしました。横田選手が病気に負けず野球を続けるすがたは、野球を知らない人もふくめて、多くの人の心を動かしました。

しかし、病気がさらに重くなり、その年に横田選手はプロ野球から引たいすることを決意しました。横田選手の引たい試合には、多くの人が球場にかけつけました。横田選手は八回表からセンターの守びにつきました。ランナー二塁。その時、横田選手の守るセンターにボールが飛んできました。横田選手は、ボールがとても見えにくい中、全力で走り、ボールをキャッチしました。ランナーはホームベースに向かって走っています。



【チームにもどり、練習にはげむ横田選手】

「<sup>ま</sup>負けないぞ。」心の中でさけびながら、ためらわずに力いっぱいボールをホームベースに投<sup>な</sup>げました。力強く投<sup>な</sup>げたボールはいきおいを失<sup>うしな</sup>わずまっすぐキャッチャーにとどきました。

「アウトーツ。」

そのしゅん<sup>かん</sup>間、観客席<sup>かんきやくせき</sup>から大きなはく手とかん声がわきおこりました。仲間<sup>なかま</sup>たちがかけより、喜び合いながら横田選手と手を合わせました。たった一<sup>ひと</sup>つのアウト……。しかし、そのプレーにはゆめをあきらめない強さがつまっていました。

このプレーは「きせきのバックホーム」

とよばれ、今もたくさんの人々<sup>ひとびと</sup>の心に残<sup>のこ</sup>っています。



【きせきのバックホーム】

# 3

目標もくひょうに向むかって

## 自分ちようせんへの挑戦

霧島市きりしましには、下の写真しゃしんのような石せきひがあり、

美しい字うつくで霧島神宮きりしまじんぐうと書かれています。



霧島神宮きりしまじんぐうの石せきひ

この字を書いたのは、書道家の川上南溟かわかみなんめいです。こう筆ひつや習字しゅうじの作品さくひんをば集しゅうする南日本書道会なんにっぽんしうどうかいで、お手本おてほんを書いていたのも南溟なんめいです。

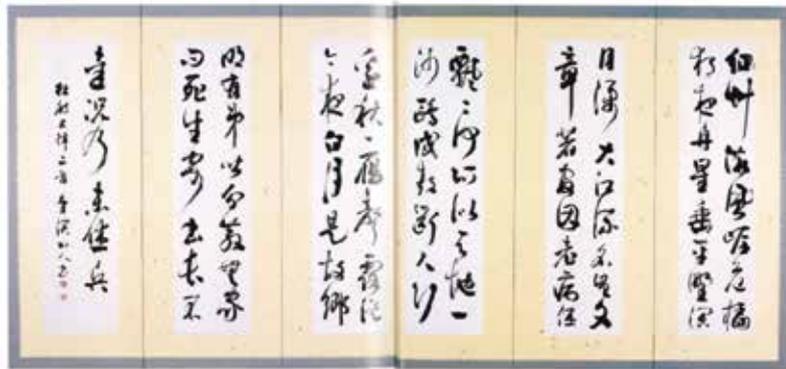
南溟なんめいは、学校の先生せんせいをしながら、書道せん門せんもんの先生せんせいになるため、文検ぶんけんというむづかしい試験しけんに挑戦しけんすることにしました。昼間ひるまは学校の仕事しごとがあるので、仕事しごとが終わおった後あと、毎まいばんおそくまで書道しうどうの練習れんしゅうをしていました。お母おとさんも毎まい日のように練習れんしゅうをささえていました。

※文検もんけん…文部省もんぶしょう（今の文部科学省もんぶかがくしやう）の「師範学校しはんがっこう中学校ちゆうがっこう高等学校こうとうがっこう高等女学校こうとうじよがっこう教員試験検定きょういんしけんけんてい」という学校の先生の試験しけん。毎回の合あわく者は、十人に一人ほどだったと言いわわれている。

練習れんしゅうで使つかった半紙はんしを重ねかさると、ゆかから天井てんじょうまでとど  
 き、柱はしらのように何本なんぼんもあつたほどでした。周りまわからは、「そ  
 んなに大変たいへんなら受うけなくてもいいのに。」と言いわれました  
 が、ひたすら練習れんしゅうを続つづけました。南溟なんめいは当時とうじをふり返かえり、  
 「練習れんしゅうすればするほど自分の力ちからになる気がして、生きるこ  
 とを強かんく感かんじた。」と、語かたっています。努力どりよくの結果けっか、文検ぶんけん  
 に合あわせた南溟なんめいは、練習れんしゅうをささえてくれたお母おははさんと  
 強かんく大きおほき合あって、よろこびました。

南溟なんめいの挑ちよう戦せんは、さらさらに続つづきます。「書道しよどうで生きるからに  
 は、日展にってんを指めざそう。日展にってんは、芸術げいじゆつの最さい高こうの場ば。そのた  
 めの努力どりよくこそ、力ちからをつける何なによりの道みちだ。」そう思おもって、  
 作品さくひんを書かき続つづけました。

※日展にってん…芸術作品げいじゆつさくひんの全ぜん国こく大たい会かい／日本美術展覧会にほんびじゆつてんらんかい



【南日本書道展知事賞受賞作品】



挑戦ちようせんから五年後、ついに、鹿児島県かごしまけんで初めてはじ入選にゆうせんすることができました。その後も何度なんども入選とくせんや特選とくせんにかがやき、南溟なんめいの字は全国の人たちから認めみとられました。自分への挑戦つづを続けた南溟は、努力どりよくを続けることにこそ大きな意味いがあると  
言っています。

「わたしは、終着駅しゆうちやくえきのないはるかな旅路たびじを歩いているにすぎない。書の道はきびしく、はるかなもの。その遠い道をけんきよに努力どりよくし続けていくことが、人生なのかもしれぬ。」

そんな南溟うつくの美しい字は、鹿児島県のたくさん  
の場所ばしよで、今も、かがや  
き続けています。



【昭和60年～平成12年に活やくした「フェリーとしま」】



【鹿児島市立美術館の石ひ】



【南溟が書いたお手本】

# 4

困難こんなんに負まけない強い意志いし

## 篤姫あつひめの願ねがい〜れきしをか変かえた手紙てがみ〜

篤姫あつひめは、天保六てんぼう（一八三五）年十二月十九日、鹿児島城下かごしまじょうかの今泉島津本邸いまいずみしまづほんていで生まれました。子供こどものころからきびしい教育きょういくを受けて育そだち、知識ちしきや礼れい儀ぎ作法さほうだけでなく、せきにん感かんやリーダーシップの大切たいせつさも学びました。

ある日、篤姫は父親ちちから重要じゅうような話を聞きかされました。

「篤あつ、お前まえはししょう軍家ぐんけにおよめに行くことになった。

これは薩摩さつまの未来みらいを決きめるとても大事だいじな役目やくめだ。」



黎明館れいめいかん（鹿児島市かごしまし）の篤姫像あつひめぞう

篤姫はおどろきました。すぐに気持ちきもちを落おち着つかせました。

※ししょう軍家ぐんけ…江戸時代えどじだいの日本にっぽんをまとめていた武士ぶしを代表だいひょうする家いへのこと

※およめに行く…この時代は家どうしのつながりを大事だいじにしていたので、けっこん相手を自分で決められず、家族かぞくが決きめることもあった。

かの女は自分の役わりをしつかりと理かいし、その大きなせきにんを果たす覚ごを決めました。江戸に向かう道中、篤姫は何度も自分に問いかけました。

「わたしはこの大きな役目を果たせるだろうか……。」

江戸に着いた篤姫は、しろう軍家の家族としての生活が始まりました。新しいかんきようになれるのはかん単ではありませんでしたが、かの女は持ち前の知しきと教養を活かし、周囲の人々とだんだんと分かり合える関係をきずきました。

そのころ、日本は大きな変化の時期にありました。新しいせい府をつくろうとする人たちと、今までのしろう軍家のやり方を守ろうとする人たちが対立していました。

ある日、新しいせい府の軍隊が江戸城にせめてくることを知ったかの女は、江戸城の外で今、何が起ころうとしているかを考えました。戦いが始まると、江戸城

※新しいせい府…新しい日本のせい治の仕組みを作った人たちのこと

だけでなく、江戸の町は焼かれ、江戸の多くの人がきずついたり、命を落としたりするかもしれせん。篤姫はそれをとて心配しました。

かの女は、戦いをやめさせるために何かできることはないかと考えました。

そこで、新しいせい府軍の隊長である西郷隆盛に手紙を書きました。

「西郷さん、わたしはどうなってもいいので、みんなの命を守ってもらえませんか。」

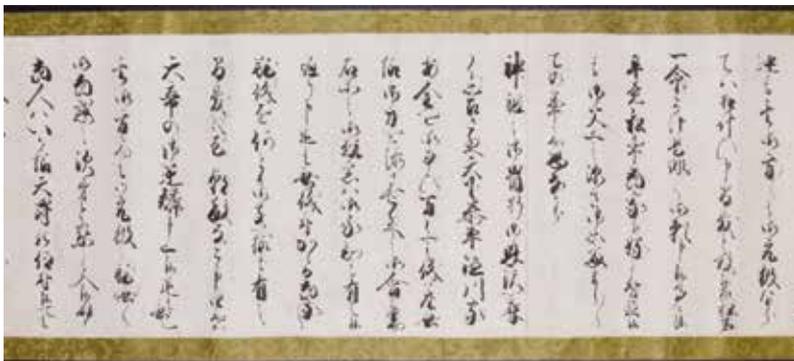
篤姫のまつすぐな思いに、西郷隆盛も心を動かされました。

その結果、戦いは起きず、多くの命がすくわれました。

四月十日、江戸城を去らなければならぬ日があつ

てきました。江戸の町が無事に守られた様子を見て、

篤姫は安心した気持ちで江戸城を後にしました。



あつひめ さいごう  
【篤姫から西郷さんへの手紙】

# 5

努力する心

## 自分にきびくつをやるよるんじや

わたしたちの町をいつも見守ってくれるけいさつかん。そんな日本の平和を守るけいさつの仕組みを作り上げたのは鹿児島の人だということ、みなさんは知っていましたか。名前は、川路利良。これは、川路がなぜけいさつという仕組みを作ることになったのかというお話です。



【鹿児島県警察本部前にある川路利良の銅像】

川路は、げんざいの鹿児島市の皆与志町で生まれました。川路の家はまずしい上に、働いていたお城までは十二キロメートルもあり、歩いて約三時間もかかりました。しかし、川路は両親のくらしが少しでも楽になるように、この道のりを毎日休むことなく仕事に通いました。また、剣道を習っていた川路は、練習にもとても

一生けん命めいに取り組みました。そのため練習生の中で一番強く、達人たっじんと言われている。運動うんどうだけではありません。仕事しごとから帰った後は、ねる時間をおしんでまで勉強べんきょうにはげみました。ねる時間が四時間ほどになってしまっても、次の日つぎには仕事に向かいむました。

ある時とき、川路かわじは大きな仕事をまかされました。ぼしん戦争せんそうで一つのグループをまとめるリーダーです。川路は、当時、てっぼうが主流になった戦争で、けんじゅつを用いて戦たたかい、大いに活やくしました。どれだけ日ごろの訓練くんれんをがんばっていたのだろうかとおどろかれました。

その後、川路は、戦争で一しよに戦った西郷隆盛さいこうたかもりにこのようにたのまれました。

「これから日本は新しい時代じだいに向かって変わかわっていかなくてはならない。しかし、それをいやがる人々ひとびともいる。争あいはこれからも起きるだろう。だから、日本の人々まもを守るそしきを作つくってほしい。」



※ぼしん戦争…一八六八年に日本で起こった、これからの日本をだれがどのようにおさめていくかを決めるための大きな戦い。

川路はその願いを受け、けいさつのことを勉強するために、フランスに行きました。

「まかされたからには、世界一のけいさつをつくろう。」

そう思った川路は、フランスで学んだことを生かして、今の日本のけいさつの仕組みを作り上げたのでした。

「けいさつ手がん」という本があります。げんざいもけいさつ学校で使われており、けいさつかんの心がまえが書かれたこの本は、川路の言葉がまとめられたものです。

「けいさつかんは国民にとって、きびしく強い、親のようなそんざいでいなければならぬ。」

「いつ何が起きても大丈夫なように、ふだんから気をぬいてはいけない。」  
「けいさつかんは、まず自分にきびしくなければならぬ。」

川路が日本のけいさつかんに伝えた言葉は今でもたくさん残されています。だれよりもがんばり、努力を続けていた川路らしい言葉だと思いませんか。

※ 川路の言葉は、小学生のみなさんが道徳について考えるために、分かりやすい表現にしています。



# 6

みんなのために働くということ

おおさか

## 大阪のおん人

ごだいともあつ

## 五代友厚

今から約二〇〇年前、げんぎいの鹿児島市長田町で、五代友厚は生まれました。わかいいろから五代は外国にあこがれをもち、中国の上海や、はるか遠くのイギリスにもわたりました。外国には、当時の日本にはない広くきれいな道や学びのかんきようが整った学校、高いぎじゅつを生かしたたくさんさんの工場があり、様々な商売も行われ活気に満ちていました。それを見た五代は、

「日本をこんな国にしたい。」

と強く思いました。そして、外国の商売のやり方や工場の仕組み、さまざまなきじゅつを日本に持ち帰ろうと決心し、多くのことを学



びました。

そのころの日本は明治時代のはじめで、くらしや社会の仕組みなどが大きく変わる中、人々は新しい時代への不安をかかえていました。とくに、昔から「天下の台所」とよばれるほど商売がさかんだった大阪の人たちは、商売がうまくいかず、こまり果てていました。そこで、外国に行ったことがある五代に助けを求めました。

帰国後の五代は、役人として国のために働いていましたが、大阪で商売をする人たちの声を聞き、「自分が学んだことを生かして、みんなの役に立ちたい。」と考えました。そして五代は、思い切って国の役人をやめ、大阪で商売をする人たちと力を合わせて、大阪の商売をもう一度立て直そうと心に決め、大阪で実業家として仕事を始めました。



※実業家…会社を作ったり、商売を広げたりして社会を動かす人

「国や国民の幸せが自分の幸せ。未来の人のためになればいい。」

という強い思いをもって、失敗をおそれずにいろいろなことに取り組みました。

五代がまず取り組んだのは、商人が安心して話し合い、力を合わせられる

場所づくりでした。そこで五代は、「大阪商法会議所」（今の「大阪商工会議所」）

をつくりました。この会議所は、町で働く人たちをささえる大きな力となりま

した。五代がしたことはそれだけではありません。鉄道や銀行、学校などを次々

に整え、街を発展させました。

こうした五代の努力によって、大阪の商売は大

きく発てんし、やがて日本全体の産業も栄えていき

ました。そして、五代は大阪の人々にとって大切な

おん人となり、みんなのことを考えたその行いは、

今でも大阪の人々に語りつがれています。





おおさかとりひきじよまえ  
【大阪取引所前】



おおさかしょうこうかいぎじよまえ  
【大阪商工会議所前】

大阪各地に建てられた  
ごだいあともつ  
五代友厚の5体の像



こうせいしょうけんほんてん  
【光世証券本店エントランス前】



おおさかこうりつだいがくすきもと  
【大阪公立大学杉本キャンパス内】



おおさか  
【大阪ビジネスフロンティア高校内】



おおさかぎぎょうか  
【大阪企業家ミュージアムで  
てんじ  
展示される五代友厚の写真】



おおさかしせつみなみれいえん  
【大阪市設南霊園にある



けんしょうび  
五代友厚顕彰碑  
ぼしよ  
五代友厚墓所】

## 保護者の皆様へ

この本は、鹿児島県の子供たちのために作成した道徳の教材です。子供たちが、この本に登場する人物の考え方や生き方にふれ、自分の生き方について考えを深め、夢や希望をもって過ごしてもらえることを願って作成しました。ぜひ、この教材と一緒に読んでいただき、お子さんと思ったことや考えたことを話し合ってみてください。また、さらに知りたい、深めたい場合には下に記載している【参考・引用文献】も紹介してみてください。

### 【参考・引用文献】（順不同）

□横田 慎太郎

横田 慎太郎（2021）「奇跡のバックホーム」幻冬舎

□川上 南溟

鹿児島県書道会・南日本書道会・南日本新聞社（2001）「川上南溟一書と生涯」

南日本書道会（2001）「川上南溟手本撰集」

川上南溟と教え子たちの書展実行委員会（2015）「生誕 100 年 川上南溟と教え子たちの書展」

□篤姫

寺尾 美保（2008）「みんなの篤姫」南方新社

□川路 利良

加来 耕三（1999）「大警視川路利良」出版芸術社

□五代 友厚

大阪商工会議所人材開発部 大阪企業家ミュージアム（2022）「大阪の恩人 五代友厚がわかる本」

大阪商工会議所

### 【掲載画像】

□篤姫

「篤姫から西郷さんへの手紙」（14 ページ） 鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵

### 【協力】（敬称略，順不同）

（株）MINIATURE LIFE / （株）阪神タイガース / 南日本書道会 / （公財）児玉美術館 /

大阪商工会議所 大阪企業家ミュージアム

横田 まなみ / 横田 真之

假屋園 昭彦 / 島津 公保 / 下豊留 佳奈 / 野間 友見 / 永里 智広 / 山下 久美子 / 泉 宗弘 /

松岡 高史 / 榊 隼弥 / 前畑 あさよ / 塩満 貞徳 / 岩重 智美 / 宮内 弘毅 / 坂口 洋幸 / 安樂 朋陽 /

岩城 智佳 / 岩下 周平 / 浜田 勝広 / 池田 智幸 / 植田 栞里 / 新崎 亜衣里

学習内容一覧			
	主題名	教材名	内容項目
1	好きなことをのばしていくために	見立ての世界	A 個性の伸長
2	あきらめない心	きせきの バックホーム	A 希望と勇気、努力と強い意志
3	目標に向かって	自分への挑戦	A 希望と勇気、努力と強い意志
4	困難に負けない強い意志	篤姫の願い〜れきしを変えた手紙〜	A 希望と勇気、努力と強い意志
5	努力する心	自分にきびしくすること	A 希望と勇気、努力と強い意志
6	みんなのために働くということ	大阪のおん人 五代友厚	C 勤労、公共の精神

「道徳教材～小学校3・4年生用～」  
令和8年2月発行  
編集・発行 鹿児島県教育委員会  
〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10番1号

この本の<sup>ふく</sup>副タイトルについて

<sup>ふく</sup>副タイトルを「今日、どの先人？（きょう、どのせんじん？）としました。

その理由は、<sup>りゆう</sup>以前、<sup>いぜん</sup>私たちが<sup>わたし</sup>作成した<sup>さくせい</sup>「郷土の先人（きょうどのせんじん）」の<sup>ぞくへん</sup>続編（4作目）であるからです。

また、これまでの教材を<sup>きょうざい</sup>含めて「今日は誰の話を<sup>だれ</sup>読もうかな」と<sup>まえむ</sup>前向きに<sup>ねが</sup>思っ<sup>こ</sup>てほしいという願<sup>ねが</sup>いも<sup>こ</sup>込めています。